



平成 29 年度予算の概要

市民の皆さんの
毎日を少しずつ
楽しく住みやすく



子育て

●待機児童ゼロに向けた保育園・5億1367万円 こども園の整備

平成 30 年度までの待機児童解消を目指し、高山認定子ども園の整備に加え、駅周辺の小規模保育所の拡充と幼稚園のこども園化を一層推進します。
(平成 28 年度末の待機児童数 46 人)

●不妊症・不育症治療費補助の拡充 458 万円

●子ども・若者総合相談窓口の設置 634 万円

教育・福祉・就労・子育て・更生保護等の関係団体が連携し、不登校やニート・ひきこもりなどのケースに総合的に対応する窓口を設置します。

●児童虐待の未然防止対策の強化 (スーパーバイザーの配置、保護者向けの相談・プログラム強化)

●北コミュニティセンターでの子どもの遊び場所 (はばたきみつき) の開設



教育

●小学 1 年生からの英語教育 1291 万円

ALT (外国人の指導助手) の指導力強化や、英語教育推進委員会の設置など、小学 1 年生から 6 年生まで切れ目のない英語教育を実現します。
ICT を活用した授業についても実証・研究を進めます。

●より安全でおいしい給食を提供するための 新しい給食センターの整備 6457 万円

●市民とともに進める音楽の街・文化の街いこま 888 万円

昨年度大成功した「市民で創る音楽祭」をさらに発展させるほか、昨年度設立した市民吹奏楽団による演奏会や市内小中学校の吹奏楽部とのコラボによるコンサートを実現します。
同じく市民の企画・運営による市民映画祭を新たに開催します。

●熱中症対策の徹底

昨年度発生した熱中症による死亡事故を忘れず、熱中症事故調査委員会の提言を踏まえ、熱中症の未然防止対策を全小中学校、全幼保こども園に徹底します。

福祉

●高齢者・障がい者の「生きいきクーポン」事業 3億1165万円

移動支援だけに限定されていた従来の支援に加え、健康づくりや社会参加、要介護者支援などにも活用できる「生きいきクーポン」券を配布します。

●全国トップレベルの認知症・介護予防対策の さらなる推進 4805 万円

認知症地域支援推進員の増員、認知症簡易判定機器の導入などを行います。

●障がい者の生活を支えるグループホームの建設 改修補助及び支援拠点整備事業 1億5175万円

●公共施設のトイレの洋式化 8304 万円



環境・まちづくり

●空き家対策事業 2204 万円

昨年度の空き家実態調査の結果に基づき、空き家の流通促進、建て替え支援、市民活動への活用などの対策を進めます。

●歩きたばこ及び路上喫煙の防止に関する条例の 施行に伴う啓発 67 万円

歩きたばこ等の禁止を効果的に進めるための禁止区域の設定や啓発活動を行います。

●地域エネルギー会社の設立 765 万円

エネルギーの地産地消と福祉事業などのコミュニティサービスを組み合わせた地域エネルギー会社を設立します。収益は市政課題の解決に充当します。

●テレワーク&インキュベーションセンターに よる生駒の「働き方改革」の実現 866 万円

●ナラ枯れ対策事業 3994 万円

●イノシシから市民を守る啓発事業を含む 有害鳥獣防除事業 521 万円



生駒の未来を見据えた取組も推進しています！

生駒市立病院

開院から間もなく 2 年となる生駒市立病院は、少しずつ体制も整い、患者数も増え、経営が安定してきました。平成 29 年度の事業計画では、常勤の医師を 27 名まで増やし、今年度の後半には黒字転換を予定しています。市立病院の開院後、市内の救急患者の受け入れ率は 61.5% から 74.1% へと上昇し、搬送時間も 40.9 分から 38.2 分になり短縮できています。一層の経営改善に加え、地域医療機関や福祉・介護事業所との連携も進めてまいります。

学研高山地区第 2 工区

学研高山地区第 2 工区については、この秋までに有識者による検討を取りまとめ、その後、より具体的な開発の在り方について議論を進めます。
奈良科学技術大学院大学ほか、市民や市内の事業所にも意義のある開発を目指して、本年度も議論を重ねてまいります。
(学研高山地区第 2 工区の議論のうえで避けて通れないリニア中央新幹線、北陸新幹線に関する私の見解は市長日記 3 月 30 日号をご参照ください。)